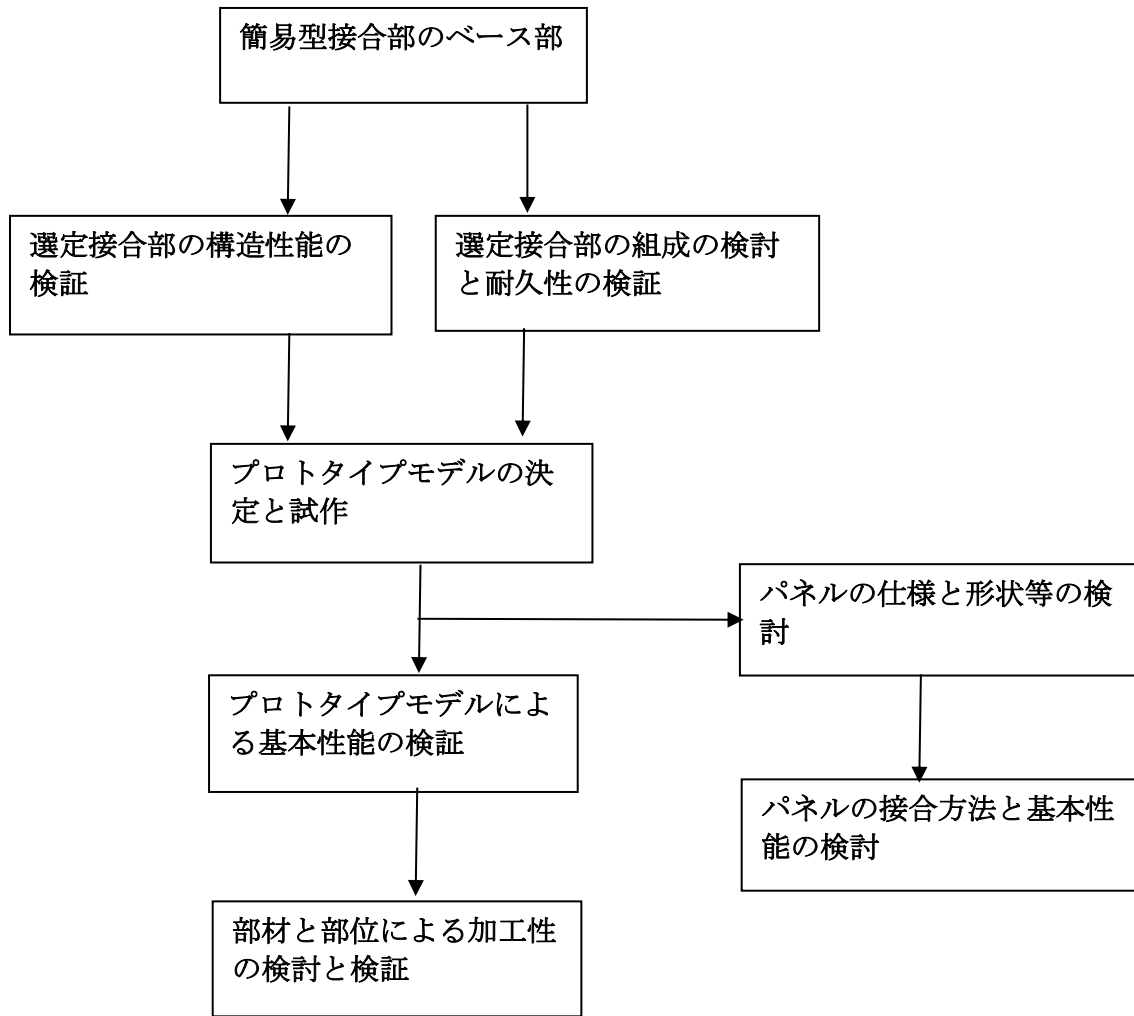


(新規課題)

NO. 11	技術開発 課題名	木材の省資源化と省力化を推進させる接合金物の開発と断熱パネルによる省力化工法の検討		
事業者	株式会社榊住建 取締役社長 千代岡英一 昭和住宅株式会社 取締役社長 湖中明憲 株式会社ナガイ 取締役社長 永井嗣展 ユアオプト 代表 中山正利 大橋好光 東京都市大学工学部建築科 教授			
技術開発 経費の総額 (予定)	約 11 百万円	技術開発 の期間	平成 24 年度～ 25 年度	
<input type="checkbox"/> 1 住宅等におけるエネルギーの効率的な利用に資する技術開発 <input checked="" type="checkbox"/> 2 住宅等に係る省資源、廃棄物削減に資する技術開発 <input type="checkbox"/> 3 住宅等の安全性の向上性に資する技術開発				
背景・目的	<p>東日本大震災以降、住宅を取り巻く環境はさらに大きく変化し、省資源、省エネ性対策などに関しては早急に取り組むことが求められ、その取り組みは、地域の消費者に寄り添い、地域に根ざし、家の守り手として、継続し続けることができる街の工務店の育成を行うことが出来るようにしながら、これからの住宅建築の新たな基盤を作りながら行われることが必要とされている。</p> <p>そのため、これからの住宅建築の基盤づくりは、これまでの大量生産、大量消費に重点をおいた効率化を求める住宅作りではなく、地域の工務店が地域の中で住宅作りが継続的に行っていくことが可能とするための、簡易型の構法や工法の開発やリユース、リペアができる工法や部材の開発などを行い、住宅全体の無理無駄を省き、エネルギーの消費を抑え、使いやすく、必要に応じて可変が可能となるなど、資源と環境に配慮し、高齢化への対応と個々人の要望に基づく住まいを造れる環境を整えることが求められていることにある。</p>			
<p>■技術開発の概要</p> <p>24年度の技術開発の概要</p> <p>主要開発項目</p> <p>接合金物と接合具及び加工部材の基礎形状と性能の検討と検証と接合金物を最適に使用し、維持管理が容易となるパネルの仕様の検討を行う。</p> <p>1、ベースとして検討する簡易接合型金物と接合具の基礎的要素の検証</p> <p>1) 性能の安全性と部材の健全性の検証</p> <p>①柱と梁、梁と梁などのせん断性、逆せん断、引きぬき、引張りに関する性能に関する予備試験の実施と検討</p> <p>②部材の組成と耐久性の検討</p> <p>③部材の組成と防錆処理による耐久性の確認</p> <p>2) 加工性の検証</p> <p>①柱、梁など、部材の種類による加工方法の検証</p> <p>②加工精度と効率の検証</p> <p>3) 施工性の検証</p> <p>①接合方法の検討と施工性の検証</p> <p>2、パネルの仕様と接合方法の検討</p> <p>①ベースとなるパネルの仕様やディティールの検討</p> <p>②接合部位の選定と接合方法の検討による基礎的性能の検証</p>				

24年度実施：開発フロー図



総評

木材のリユースのための、木造接合部開発として評価できる。
開発に際しては、引き抜き等の構造的な検証や耐火性能の検証など、実用可能な技術としての検証を十分に行うこと。